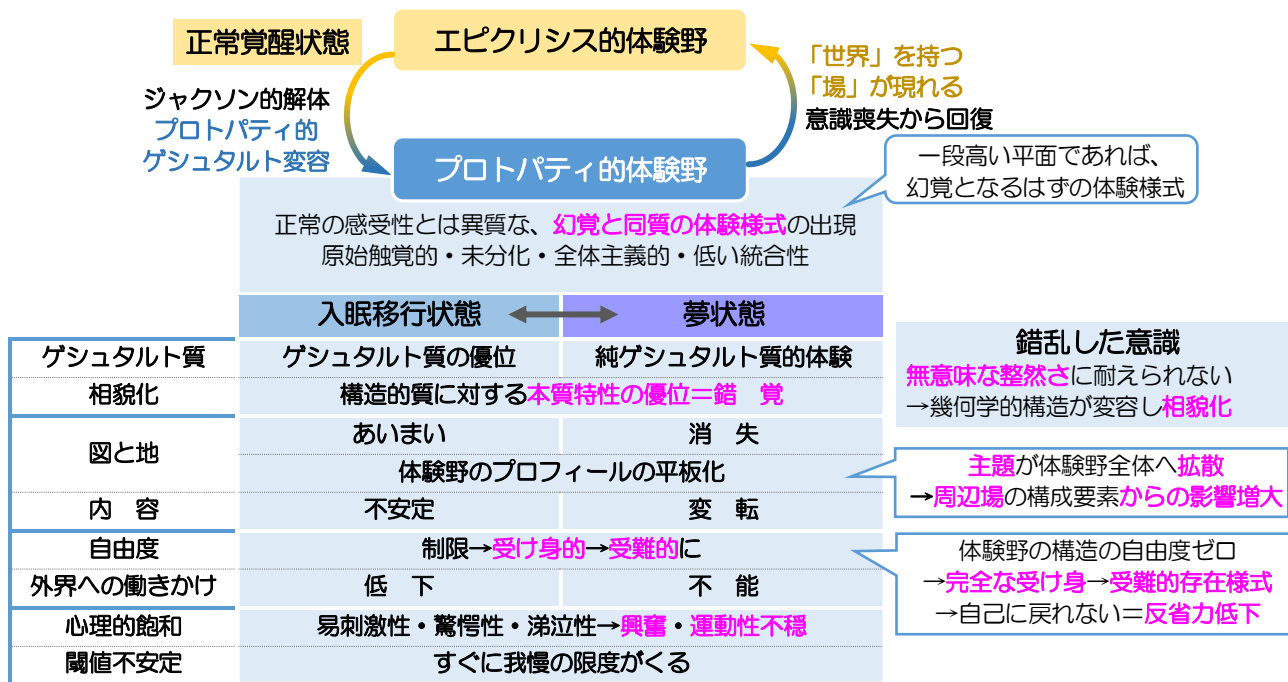
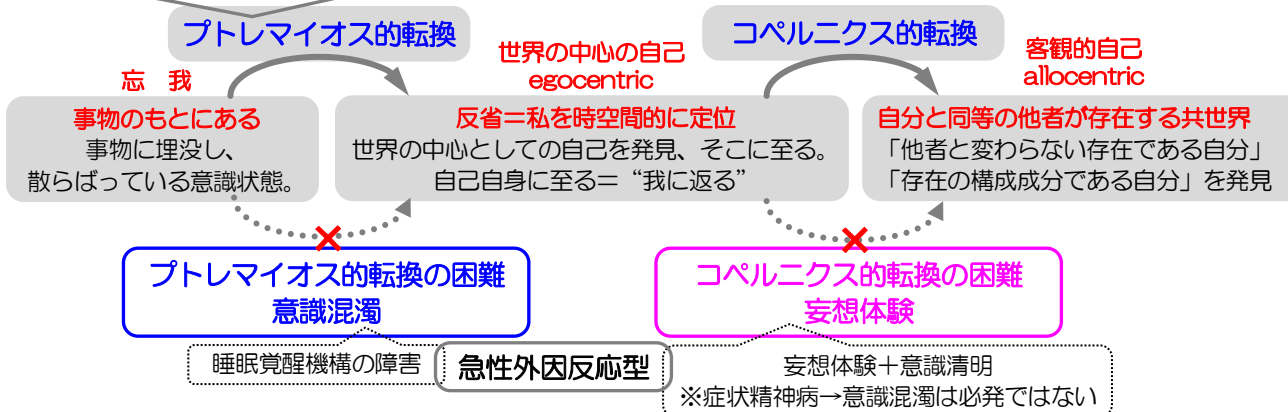


症状精神病 Klaus Conrad 1905-1961

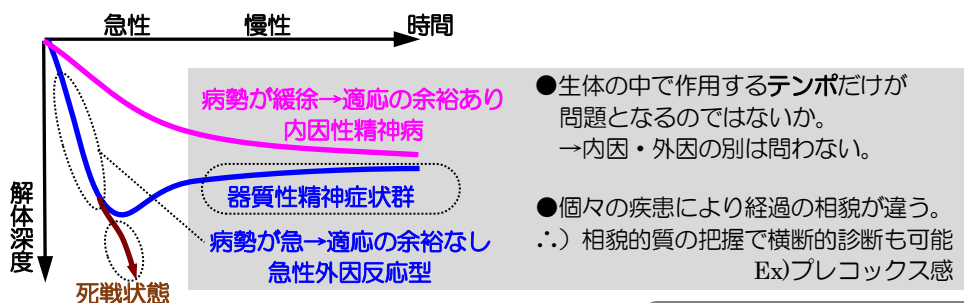
現下の体験野のゲシュタルト変容



- 事物のもとにあっても、我に返り、自分自身に戻れる。“乗り越え”可能。
- 自分がどこにいるかわからない世界から 自己のもとへ至る。
- 「人間」になる第一段階 ※9か月革命 ※ASD では生じない？



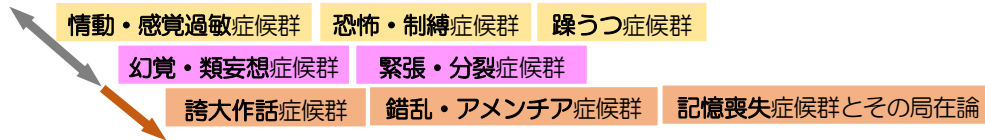
病勢のテンポによる疾患類型



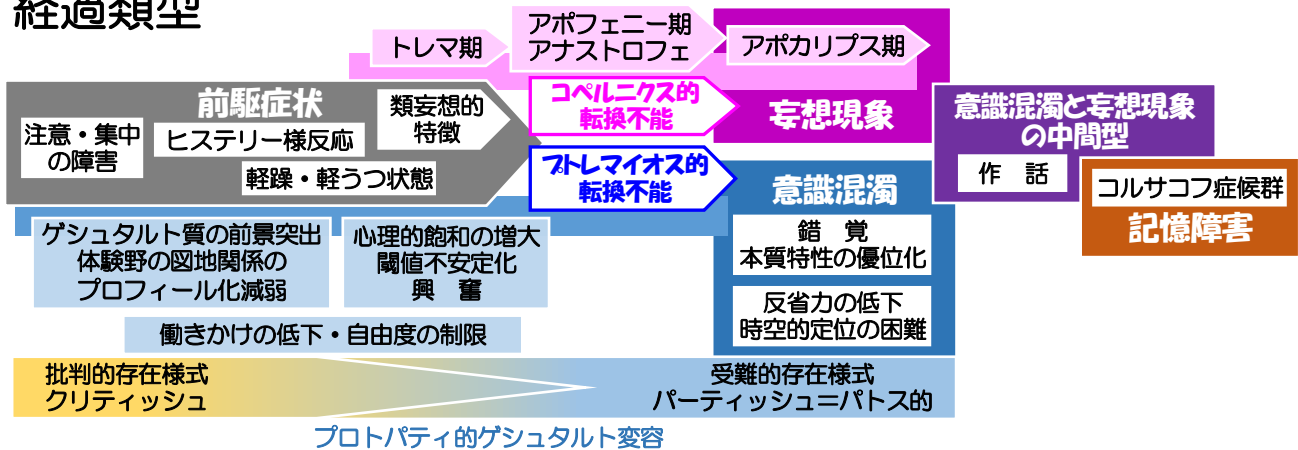
死戦状態の初期=症状精神病
死の直前までには、
疾病患者の全てが重症の精神的变化に至る。

- 「身体に基礎を求めうる精神病の際にないような精神病の状態像は実際上存在しない。」(シュペヒト)
- 症状精神病の変化の本質は、ゲシュタルト形成過程の変化に求めるべき。

症状精神病の症候群



経過類型



前駆現象 ※Bonhoeffer「過敏情動性衰弱状態」

- 前駆期の本質：非特異的状态の中に、萌芽的に「すべてが隠されている」。
- 前駆期の2型
 - ①意識混濁の方向→プロトパティ的転換の不能へ
 - 相貌化 ●ゲシュタルト質の前景突出 ●体験野のプロフィールの平板化
 - 自由度の制限 ●心理的飽和 ●閾値不安定
 - ②妄想現象の方向→コペルニクスの転換の不能へ。
 - トレマ型のうつ的・妄想的気分変調 ●妄想体験

♪急性アルコール中毒
【もうろう型】意識混濁の方向
【せん妄型】妄想の方向

注意・集中の障害

- 図地関係のプロフィール化の減弱
→主題の体験野全体への拡散・周辺場の構成要素からの影響増大
- 心理的飽和の増大：易刺激性・驚愕性・涕泣性・興奮
- 閾値不安定化：すぐに我慢の限度がくる
- 自由度の減少・外界への働きかけの低下
- 【批判的存在様式】から【受難的存在様式】へ変容

注意とは
●主題となっている対象を、背景から鮮明に浮き上がらせること。強いプロフィール化。
●主題を修正する自由の保持。

興奮
●言語・運動の衝動の向上あるいは抑制
●これ以上還元不能（♪力動）興奮において身体的なものに出合う。
※運動性不穩

ヒステリー様反応

- 心理場における緊張の弱まり。
- 「したくない」（＝意図性）のではなく「できない」。
自由度の制限。外界へのはたらきかけの低下。

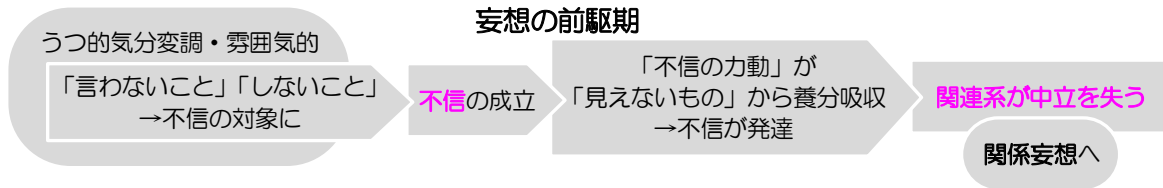
自由度の制限
一見【わざとらしい】が、【したくない】ではなく【できない】
意図性 自由度の制限
【とらわれ】 ⇔ 【とりつかれ】
うつ 躁

軽躁・軽うつ状態

- 気分変化は、プロトパティ的ゲシュタルト変容の様式をとる。単なる循環気質の発現ではない。
- 1分以内に起こる発来様式→器質的であり、気質による気分変化には見られない。

類妄想

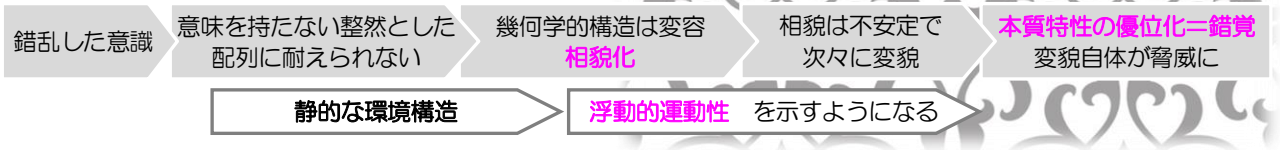
- 初期のうつ的气氛変調に混在。 ※不信感・被害念慮「優しくしてくれない」「辛く当たられる」
- 統合失調症のトレマ期と区別困難。



意識混濁

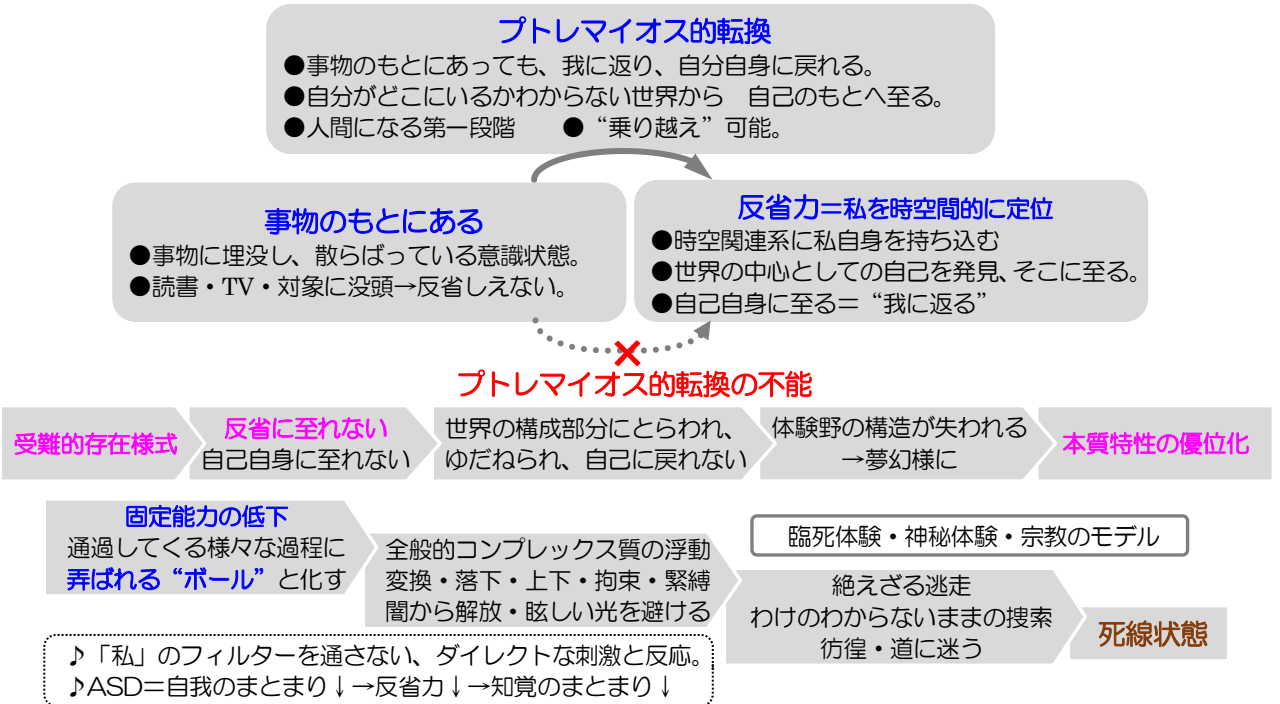
- 体験野の構造の自由度ゼロ→完全な受け身性＝受難的存在様式
- 高度な心理的飽和：興奮・不穩→運動性不穩

錯覚＝本質特性の優位化



- 視聴覚のみならず他の知覚でも、心理的飽和性が亢進。同一体位を維持できない→運動性不穩
- 【判定的・批判的存在様式】が【受難的存在様式】の中に霧消

反省力の低下＝時空的定位の困難



妄想現象

意識清明で分裂病様の妄想・緊張病現象。錯乱による妄想様確信ではなく**真性妄想**。

幻覚・類妄想精神病 ※すべての症候性精神病に起こる。



意識混濁と妄想現象の中間型

- 病因が緩慢に作用→徐々に深い解体へ
- 一回性の病因（頭部外傷など）→深い解体（意識障害）から回復方向へ

作話

- 意識正常だが、途方もない誇大的な作話→偉く見せようという**意図性**（＝正常心理）**はない**。【自動的】。
- 想起の際、他の体験の記憶が干渉し、「**無防備**」に委ねられ、障害を意識しない。
- **自己を時空間に定立できない**→**誤った関連系を絶えず建設**。再生された記憶の**時空間グシュタルトは変形**。
- 現実の状況と相貌的に類似があれば、客観的には認められない**現実性を性急に付与する**。
→**類似のものが繋がっていく**。【連合的】 ● 願望充足的契機も加わる。【感性誘因性】
- ひょいひょいと浮かぶ**偶然の着想**に委ねられる。
- 記憶障害と結合→作話に対し、現実と直面させ、矛盾を理解させようとする、記憶障害が露わになる。

作	自動的	意図性なし 受け身的	深刻さ欠乏 反省力低下 無防備
	連合的	相貌の類似の繋がり	偶然の着想
話	自己の時空間定立困難	誤った時空間関連系を絶えず構築	

記憶障害

コルサコフ症候群

- 【想起】過去を現在化すること。
- 【記憶】現在の体験要素を、絶えず自ずと痕跡野に組み入れること。＜統合過程＞
意志によって強化はできるが、減弱化はできない。
- 【特定内容の再生】痕跡野から一部を切り出す＜分化過程＞

- 【現在の体験の総体】と【痕跡野】との【統合的ゲシュタルト連関】の欠如。
→**体験要素が同一化されない。無関係にバラバラ**。
- ※重症例：続けて示した内容が、対形成することなく、無関係にバラバラのまま。

Cf. コルサコフ症候群～Ey

- 【注意力不足】放心状態・疲労による不機嫌
- 【記憶不能による健忘】 【記憶の再認】時系列の中で、統合不十分。
- 【既視・誤認】情動に駆動された不完全な回想→現在の新しい知覚に親しい感情を付与。
- 【失見当識】空間の失見当識→抽象的幾何学的空間で混乱・空間表象の解体。
- 【作話】自動的・連合的傾向をもつ思考様式。錯乱・失見当識による夢幻妄想を作り出す。
- 【多幸的・無頓着な無関心】

作話

- 即座に、確信をもち物語の中に自分を置き、出会った人、交わした会話を詳しく述べる。
- 物語はやっとのことで集めた、種々の出所からの断片による。
- 流動的で、もっともらしく、健忘の代償のごとく。 ● 質問や暗示によって誘発される。

Cf. コルサコフ症候群～Weitbrecht

- 自発性欠如 ● 倦怠 ● 了解困難 ● 無関心で表面的な態度 ● 持続性のない情動
- 記憶喪失を豊かな配慮でカムフラージュしようとする自発傾向。
- 話し相手の暗示に誘発され作話し、矛盾に陥るが、気かけない。
※「記憶追想障害を作話で取り繕い、平静を装っている」のではない。
- 新たな体験要素は「時間の枠組み」や「意味連関」に組み入れられず、雑然と積み重なり、忘れられやすい。
- 急速に現れ、過ぎ去る現在の体験要素を、体験世界に組み入れられないながらも、未だに感動を満たすことのできるテーマは、作話の形式で長時間維持しうる。
- 上機嫌は、疲労を伴い、不機嫌な無関心に変わる。
- 過去に情動に駆られた印象的な場面が、現実と溶け合う。
- 情動を占めている事象と、現在の体験との現実性が、状況によって、急速に変動。